

■開設年度		■開講部局	
2021		共通教育	
■科目名			
稲盛和夫のベンチャー企業論			
■英語科目名			
Venture company theory of Kazuo Inamori			
■前後期	■開講区分	■科目形態	■単位数
前期	毎週	講義	2
■（28年度以降入学生）中分類		■（28年度以降入学生）小分類	
教養教育科目(教養基礎科目)		人文社会科学分野（選択科目）	
■（27年度以前入学生）中分類		■（27年度以前入学生）小分類	
b. 知力：人文・社会科学		11. 経済・経営を学ぶ	
■受講学部学科			
全学部			
■担当教員		■担当教員所属	
吉田健一		稲盛アカデミー	
■連絡先（TEL）		■連絡先（MAIL）	
099-285-3753		k5621643@kadai.jp	
■オフィスアワー（授業時間外の対応）			
随時可（但し、事前にメールか電話で連絡をください）			
■共同担当教員			
劉美玲			
■アクティブ・ラーニング			
5. 学習の振り返り；			
■アクティブ・ラーニング（「その他」の内容）			
■アクティブ・ラーニング（授業回数）			
■〈理念〉重要視する教育目標			
3. 〈論理的思考〉 1) 幅広い視野から課題の解決策を考えることができる			
■〈理念〉教育目標			
3. 〈論理的思考〉 3) 自分の考えを論理的に話し、書くことができる			
■〈理念〉教育目標			
7. 〈他者との協働〉 1) 自身の責任や立場を理解し、自覚的に行動できる			
■〈理念〉教育目標			
7. 〈他者との協働〉 2) 他者と協力して課題の解決を図ることができる			
■授業概要（目的・内容・方法）			
この授業の目的は、将来、起業または企業経営を目指す学生に、どのようにして会社を経営し成長させていくか、企業経営に必要なマインド及び会社経営の考え方について、基礎的な理解を図ることである。本講義では本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長、日本航空名誉顧問）と盛和塾（稲盛氏に学ぶ経営塾）の塾生との問答録をテキストとして使用する。授業内容としては、稲盛和夫氏の経営観を学習するとともに、企業経営を超えた基本的な人間観についても学習する。講義名称は「ベンチャー企業論」となっているが、本講義はベンチャー企業の設立の具体的な方法などを学ぶものではない。経営問答を通じて、主として中小企業の経営の仕方について学ぶものである。授業は配布資料等による講義を中心とし、毎時間、フィードバックシートを提出していただく。本講義は吉田、劉の2人が共同で担当する。2021年度も遠隔で実施する可能性があります。			
■学習目標			
1. 企業経営者に求められる資質への理解を深めること。 2. 企業を成長させるためには、何を構築していかなければならないかを理解すること。 3. 起業の意義と大義ある目的を掲げることの重要性を理解すること。 4. 起業の意義を経済活性化に及ぼす影響についての観点から理解すること。			
■授業計画・試験の有無（16回〔初修語は31回〕に分け、回数、授業内容、自学自習等）			
1. オリエンテーション、活力ある社風をつくる（1）			

2. 活力ある社風をつくる（2）
3. 活力ある社風をつくる（3）
4. 社員のやる気を引き出す（1）
5. 社員のやる気を引き出す（2）
6. 幹部を育てる（1）
7. 幹部を育てる（2）
8. 自らを高める（1）
9. 自らを高める（2）
10. リーダーの役割一〇ヵ条
11. 高収益の基盤を築く（1）
12. 高収益の基盤を築く（2）
13. 高収益の基盤を築く（3）
14. 挑戦し続ける企業を目指す（1）
15. 挑戦し続ける企業を目指す（2）
16. 指定期日までにレポートを提出

■授業外学習(予習・復習)

テキストは講義時間に配布するので、復習を中心に学習してください。

■受講要件	■成績の評価基準
企業経営に関心があることが望ましい。真面目に全ての回を受講する意思のある方。	毎回のフィードバックシートの提出（50%）、期末レポート（50%）。レポート提出の要件は3分の2以上の出席。
■教科書	■参考書
稲盛和夫『実学・経営問答 人を生かす』（日本経済新聞社・2008年） 稲盛和夫『稲盛和夫の経営塾 Q&A高収益企業のつくり方』（日本経済新聞社・2007年） ※ 教科書は購入することは望ましいですが、必ずしも個人で購入する必要はありません。講義中に資料を配布します。	なし
■地域志向科目の区分（平成27年度入学生用）	■地域志向科目の区分（平成28年度以降入学生用）
■実務経験のある教員による実践的授業	
■その他	